



S.Setoguchi

サマースプリントシリーズ

THE CBC SHO

第61回 CBC賞 (GIII)

	1着	2着	3着	4着	5着
本賞	41,000,000円	16,000,000円	10,000,000円	6,200,000円	4,100,000円
付加賞	630,000円	180,000円	90,000円		



レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

3歳以上、2024.8.3以降2025.8.3まで1回以上出走馬、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 ハンデキャップ

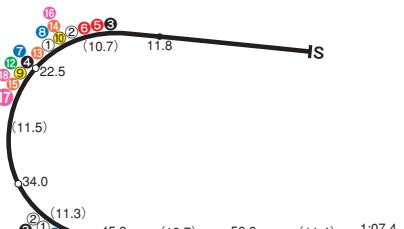
2025.8.10 中京 番・良 芝1200m (国際) (特指)

種	馬番	馬名	性	年齢	斤量	騎手	タイム	コナー	上り	馬体重	単勝	オッズ	調教師	レーティング
					(着差)		通過順位	(600m)	(増減)					
1	⑯	インビンシブルババ	牡	4	57	佐々木大輔	1:07.4	1-1	33.4	512(-2)	13.9⑤	伊藤大士(美浦)	111	
2	⑨	ジューンブレア	牝	4	55.5	武 豊	1%	4-5	33.0	490(±0)	3.2①	武 英智(栗東)	106	
3	⑤	シユトラウス	牡	4	57	杉原誠人	クビ	16-13	32.6	534(+10)	12.0④	武井 亮(美浦)	108	
4	③	ドロップオブライト	牝	6	56	松若風馬	クビ	17-16	32.3	438(+2)	10.2③	福永祐一(栗東)	105	
5	⑮	カルチャーデイ	牝	4	55	横山典弘	1	2-3	33.4	432(±0)	15.1⑥	四位洋文(栗東)		
6	⑯	ベガリス	牝	5	54	藤懸貴志	アタマ	2-2	33.5	440(+2)	30.5⑩	高橋忠史(栗東)		
7	④	クラスマペディア	牡	3	55	小崎綾也	%	6-7	33.2	500(±0)	60.0⑩	河嶋宏樹(栗東)		
8	⑯	ジャスティンスカイ	牡	6	57.5	荻野 楓	アタマ	8-5	33.3	540(+2)	16.2⑦	友道康夫(栗東)		
9	⑯	マイショウウソラフネ	牡	6	57	酒井 学	クビ	11-7	33.3	452(-2)	31.2⑨	石橋 守(栗東)		
10	⑥	ワイドトラウール	牝	4	55.5	西塚洸二	クビ	15-13	32.9	420(-10)	18.0⑧	藤原英昭(栗東)		
11	⑩	ポッドペイダー	牡	3	55	角田大和	ハナ	11-11	33.1	484(+6)	77.7⑦	上原佑紀(美浦)		
12	⑭	ヤマニンアルリフラ	牡	4	57.5	園田大成	1%	11-10	33.3	494(-2)	4.2②	斎藤崇史(栗東)		
13	⑦	グランテスト	牝	5	54	小沢大仁	アタマ	6-7	33.4	492(+14)	19.3⑧	今野貞一(栗東)		
14	②	ティエムリスト	牡	4	56	川須栄彦	クビ	14-16	32.9	478(+2)	61.5⑩	秋山真一郎(栗東)		
15	⑫	エイシンワンド	牡	3	55	吉川誠之助	%	4-3	33.9	482(±0)	23.9⑩	大久保龍志(栗東)		
16	①	ハルサムノート	牡	5	57	北村友一	ハナ	9-13	33.3	510(-4)	25.7①	高野友和(栗東)		
17	⑬	ミルトケイモー	牡	5	54	田口貴太	クビ	9-11	33.5	516(-4)	34.2⑫	中村直也(栗東)		
頭	⑪	カリボール	牡	9	56	A.バデル							西村真幸(栗東)	

単勝⑰1,390円(5%)* 優勝⑰360円(4%)* ⑨160円(1%)* ⑥410円(6%)* 枠連⑮-⑯1,020円(3%)*

馬連⑯-⑰2,090円(3%)* ワイド⑯-⑰990円(4%)* ⑤-⑯5,300円(67%)* ⑥-⑯1,310円(11%)*

馬単⑯-⑯5,120円(11%)* 3連複⑯-⑯-⑯15,520円(44%)* 3連単⑯-⑯-⑯5,964,60円(268%)*



通過タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m
34.0 - 45.3 - 56.0 44.9 - 33.4

アラカルト

- 佐々木大輔騎手はCBC賞初勝利。JRA重賞は本年3勝目、通算6勝目
- 伊藤大士調教師はCBC賞初勝利。JRA重賞は本年初勝利、通算3勝目
- Shalaa産駒はJRA重賞初勝利
- 4歳馬の勝利は23年ジャスパークローネに続く通算17回目
- ハンデ5*での勝利は06年シーアズトウショウ以来19年ぶり、通算2回目(別定戦だった66年~05年は除く)
- カリボールは疾病(右前肢フレグモーネ)のため出走取消
- ドロップオブライトの幸英明騎手は前日の中京競馬第4競走での馬場入場後の落馬負傷のため松若風馬騎手に変更
- 非抽選馬 1頭(バンドシェル)

外インビンシブルパパAUS Invincible Papa

牡 鹿毛 2021.9.17生
オーストラリア Arrowfield Group Pty Ltd生産
馬主・迫田三果子氏 美浦・伊藤大士厩舎
馬名意味・無敵のおとうさん

F10-c

Shalaa 鹿毛 2013	Invincible Spirit 鹿毛 1997	Green Desert
	Rafha	
	Ghurra 鹿毛 2002	War Chant
		Futuh
Shwaimsa 鹿毛 2013	Canford Cliffs 鹿毛 2007	Tagula
		Mrs Marsh
	Sharp Point 栗毛 1992	Royal Academy
		Nice Point

5代までのインブリード: Danzig S 4×S 4 Sharpen Up M 4×S 5×S 5
Northern Dancer S 5×S 5×M 5
Doubly Sure S 5×S 5

INTERVIEW

菅原通次代表取締役(ウイニングスタッド千歳・育成)

3歳時に「大物かもしれない」と思いました

2歳時、来日直後の調整を行いました。普段は大人しく、のんびりとしていますが、ゲートに入ったとたんにやる気を見せるようなオンとオフがハッキリとした性格。芝もダートもこなせそうな走りをしていましたが、3歳時のグランアレグリアC(1着)を見て「大物かもしれない」と思いましたね。今回は人気がなかったですが、期待通りの結果を出してくれました。



S.Naka

函館スプリントS(ハナ差2着)から転戦してきたジユーンブレアと、シリーズ2勝目を狙う北九州記念の覇者ヤマニンアルリフラが双璧と目されたサンデーサーフィンG1、セブンヴェイルズ Seven Veils(リースリングS・豪G2)、シャケド Shaquero(ブリーダーズプレート・豪G3、パゴバゴS・豪G3)、ウェルフル Welwal(ファンテンブローブ賞・仏G3、ケヴィンヘーファーナンS・豪G3)、インビンシブルパパAUS(本馬)、他に重賞勝ち馬多数

父シャラ Shalaa

アイルランド産 英 仏8戦6勝(ミドルパークS・英G1、モルニ賞・仏G1、ジュライS・英G2、リッチモンドS・英G2)、2017年から仏、豪で供用

[代表産駒]ノースピークアレキサンダー No Speak Alexander(メイトロンS・愛G1、アサシンS・愛G3)、モーニンググローリー Mornington Glory(A.J.モアS・豪G1)、セブンヴェイルズ Seven Veils(リースリングS・豪G2)、

リコメンディション Recommendation(ゼディティヴS・豪G3、サージョンモナッシュS・豪G3、ブレッチングリーS・豪G3)、ブラックキャヴィアS・豪G3)、ジェニララ Jennilala(オーラリアS・豪G3、メイトロンS・豪G3)、シャケド

Shaquero(ブリーダーズプレート・豪G3、パゴバゴS・豪G3)、ウェルフル Welwal(ファンテンブローブ賞・仏G3、ケヴィンヘーファーナンS・豪G3)、インビンシブルパパAUS(本馬)、他に重賞勝ち馬多数

母シュワイムサ Shwaimsa

アイルランド産 北米、英7戦1勝

(18 不受胎)

サクセスフル Successful(19 牝父Shalaa)豪21戦4勝

マガンドンディラグ Magandang Dilag(20 牝父Real Steel)フィリピン9戦8勝(グラナカボデマニア)

インビンシブルパパAUS 本馬(21 牝父Shalaa)中央10戦6勝(CBC賞G3、京葉S・L、グランアレグリアC)獲得総賞金121,609,000円

ビドウ Bidu(22 牝父Shalaa)

(23 牝父Trapeze Artist)

(24 牝父Trapeze Artist)

祖母シャープポイント Sharp Point

アイルランド産 愛 北米、英3勝(ティペラリースプリント・愛L、フィニクスS・愛G12着、シルヴァーフラッシュS・愛L2着)

ニードルクラフトIRE(02 牝父Mark of Esteem)伊、独、仏4勝(クロエ賞・仏G3、セルジオクマニ賞・伊G3)、ファインニードル(スプリンターズS G1、高松宮記念G1、最優秀短距離馬、種牡馬)の母

マイフィールド Mayfield(03 牝父Danehill)豪、仏1勝、ギャラティン Gallatin(タロックS・豪G2)の母

フラクショナル Fractional(09 雄父Manduro)仏9勝(ドラール賞G2、メシード賞G3、ラクーブドメゾンラフィットG3、クインシー賞G3、トゥルジェヴィル賞・L、ドラール賞G2着、ユージェーヌアダム賞G2着) シュワイムサ Shwaimusa(13 前出)

南半球産馬が持ち前のスピードで優勝

函館スプリントS(ハナ差2着)から転戦してきたジユーンブレアと、シリーズ2勝目を狙う北九州記念の覇者ヤマニンアルリフラが双璧と目されたサンデーサーフィンG1、セブンヴェイルズ Seven Veils(リースリングS・豪G2)、シャケド Shaquero(ブリーダーズプレート・豪G3、パゴバゴS・豪G3)、ウェルフル Welwal(ファンテンブローブ賞・仏G3、ケヴィンヘーファーナンS・豪G3)、インビンシブルパパAUS(本馬)、他に重賞勝ち馬多数

そんなライバルたちを尻目に、主導権を握ってからはマイペースの逃げに持ち込んだ佐々木騎手は、直線入口からスパート。十分に余力を残していたインビンシブルパパは10秒台のラップを刻んで坂を駆け上がり、後続を突き放す。ゴールの間際では馬群を捌いて追い込んだジユーンブレア、外から伸びてきたシユトラウス、ドロップオブライトの強襲を受けたものの、坂上で開いたリードが“決定打”となり、そのまま逃走劇の主役を演じ切った。9月生まれの豪州産馬とあってゆつくり態勢を整えられた本馬は、昨年2月にデビュー(3着)。ダートの短距離戦で実績を重ね、今年4月の京葉Sでオープン初勝利を挙げた。初めて芝に先を向いた前走の函館スプリントSでも、速いラップ(前半600m32秒5)を刻んで4着に逃げ粘り、高い適性をアピール。札幌から中京に駆けつけた佐々木騎手(前日にエルムSを制覇)と初コンビを組んだこの日は、二刀流のスピードを見せ付けて重賞初制覇を果たし、スプリント界の新星に名乗りをあげた。